

平成24年度 学校評価

校訓「自律・協力・創生」の精神のもと、人間としての基礎・基本の定着を図るとともに、激しく変化する社会の中でこそ豊かにたくましく生きる力を培う。魅力ある定時制高等学校の在り方を研究する。地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。特色ある学校づくりを推進する。(学習指導・特別指導・進路指導の充実)

学校教育に関する重点取組

1 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 詳細な学力分析とそれに基づく実践	2.6	・拡大学年会議の充実 ・習熟度や少人数制授業の採用	・拡大学年会議は生徒理解に非常に有効である。 ・自主研修への参加は必ず指導力アップにつながる。	3	・学校行事を精選し、授業時間を確保する。 ・研究授業週間やベテランによる研究授業を新しく設立するなど、研究授業をいっそう充実させる。 ・教科会を定期的に開き、評価法や考査問題等について複数で相談する。
(2) 滑らかな成長につながる校種間の連携	2.7	・小高連携授業、マイスター教員授業、 中学校研究授業総会への参加	・家庭訪問で保護者との連携が密になった。 ・バドミントン教室はよい校種間連携になっている。		
(3) 家庭学習の習慣化	2	・家庭訪問による保護者との連携強化	・明城小との小高連携で本校教師の視野は広がる。		
(4) 教員の指導力の向上	2.7	・教員一人につき年間二つ以上の自主研修への参加			
(5) ひとりひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	2.7	・生徒による授業評価の実施 ・新任教師の研究授業 ・特別支援が必要な生徒の調査と職員会議での共通理解	・研究授業をもっと活性化すべきだ。 ・習熟度別を採用しても学力分析につながるようなテストが作成できていない。		

2 心の安定を図るとともに、規範意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 命の大切さを中心とした道徳性の涵養とよりよい人間関係の構築	2.9	・イジメに関する共通理解の職員会議 ・イジメに関するきめ細かい指導体制	・イジメに対する体制がしっかりとできた。問題の拡大化を未然に防ぐこともできている。	3	・イジメに関するアンケートを当面は学期に1会程度行う。 ・3年間を見越して各学年の発達段階に応じた進路のプログラムを構築する。 ・1年次より進路に関する個人カードを作成し、引き継いでいく。 ・就職希望生には社会性を身につけさせるためアルバイトをするよう強く指導する。
(2) 基本的な生活習慣の確立と情報モラル等の指導の充実	2.7	・11月の保護者と連携した人権講演会 ・気仙沼に対する募金活動	・講演会や研修会の機会がどんどん増えてきた。 ・募金活動はメディアにも取り上げられるなど、地域へのよいアピールになった。		
(3) 相談体制と長欠者の指導の充実	3.1	・ノー遅刻デーの実施 ・情報モラル講演会 (DeNA)			
(4) 進路指導の充実	2.7	・年5回の生徒面談週間の実施 ・10月の長欠者一斉家庭訪問 ・学校カウンセラーの適宜活用 ・面接練習、ステップアップの充実 ・ハローワーク職員による講演会	・昨年よりも生徒の進路意識が低下している。入学時よりの継続的な進路指導が急務である。		

3 健康の増進と体力の向上を図る

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 望ましい生活習慣の育成	2.7	・給食アンケートの実施と食育教育の充実	・給食便り等で生徒の健康面をサポートできている。	3	・生徒の食が進むよう、給食の嗜好に関するアンケートをこまめにとり、業者との連携を密にする。 ・健康講話の有効活用を図る。
(2) 健康の増進と体力の向上	2.9	・食事中のマナーや後片付けの指導 ・厳しい条件下における体育祭の実施 ・仕事と学習の両立指導	・体育祭は本当に生徒が頑張っていた。 ・仕事やアルバイトの相談に力をいれている。 ・校医による健康講話の実施。		

4 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 登下校の安全確保の取組の充実と校内の安全	3.0	・職員の立ち番、登下校指導の実施 ・防災マニュアル等を毎年改善	・地域清掃に96日間のべ434人の職員が参加。地域の人の対応がどんどん良くなってきた。「ご苦労様」の声が最近はかかるようになってきている。	4	・日々の地域清掃を継続する。 ・防災避難訓練時に地域の独居老人を生徒が訪ねたように、これからは学校行事に地域を巻き込んでいく方法を考える。 ・今年度の活動をベースに、これからの地域コミュニティ活動を活性化すればよい。
(2) 学校評価の充実	3.2	・労働安全衛生委員会の発足と活動 ・学校自己評価等4種類の評価アンケートの実施と完全公開	・自主研修への取り組みが活性化している。 ・募金活動やボランティアなど生徒が活躍する場が設けられた。		
(3) 開かれた学校園づくりの推進	3.4	・学校評議員会の年2回実施 ・清掃活動、PC教室、バドミントン教室等地域コミュニティ活動の充実	・立ち番や巡視体制がしっかりと確立されている。		
(4) 教職員の自己研鑽	3.2	・教員一人につき年間二つ以上の自主研修への参加			

教育目標

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	3.0	・「生徒は入学してよかったと思い、保護者は行かせてよかったと思ひ、地域住民はここに学校があってよかったと思う」学校のあり方の探求	・家庭訪問で保護者から「入学させて良かった」と言われた。	3	・生徒の満足感を増すために部活動や課外活動の活性化、さらには進路の実現に取り組み、保護者の満足感を増すために面談や家庭訪問に時間をさき、これまで以上に家庭との連携強化を図る。
(2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.9	・地域コミュニティ活動とキャリア教育を職員の共通課題とした教育実践	・地域コミュニティ活動に対する教師の共通理解と参加ができています。		

研究テーマ

評価内容	評価Ⅰ	本校での具体的な取組例	成果・課題	評価Ⅱ	改善策
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	2.7	・新校設立に伴う学校組織及び運営の研究 ・地域コミュニティ活動の研究 ・基礎学力向上と3修制実現のためのモジュール授業のさらなる研究 ・生徒の能力、適性、進路に対応する教育課程のあり方の研究	・中学校時の遅れを取り戻させるのに、少人数制や習熟度別が生かされている。 ・統合会議で細かなところまで十分協議できている。今後は新校立ち上げ後の教師間の共通理解が重要になる。	3	・研究テーマは来年度も本年同様、地域コミュニティ活動の研究と少人数制授業、習熟度別授業の研究でよい。 ・新校開設後の教師間の共通理解を城内の職員が模範となり先頭に立って円滑に行う。